

令和 5 年度

教職課程

自己点検評価報告書

Ver1.2

令和 6 年 2 月
愛知学泉短期大学
学長 安藤 正人

目次

I 教職課程の現況及び特色

II 基準領域ごとの教職課程自己評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標の共有

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

基準領域 2 学生確保・指導・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生確保）の確保

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

III 総合評価

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

V 現況基礎データ一覧

令和5年度 教職課程自己点検評価報告書 資料・データ等

I 教職課程の現状及び特色

1 現況

(1) 大学名：愛知学泉短期大学 幼児教育学科

(2) 所在地：愛知県岡崎市舳越町上川成 28

(3) 学生数 及び 教員数

学生数 愛知学泉短期大学 幼児教育学科 133名／578名

教員数 幼児教育学科 10名／28名

2 特色

学校法人安城学園の「建学の理念」は「庶民性」と「先見性」である。

「庶民性」とは、「民が栄えてはじめて国も富む」という思想を意味する。そして、民が栄えるためには学問を庶民の間に広めていくこと及び学問を修めた者がその成果を地域と社会に還元していくことが不可欠であるということである。さらに、「女性の社会的地位の向上」が立学の趣旨があり、「経済的自立・共生」とともに「政治的自立・共生」と「文化的自立・共生」、つまり、「オイコス・モノス」＝「家政」という意味が込められている。

「先見性」とは、来るべき社会・来るべき時代・来るべき文明を想定して教育の理想像を描くことができること、その理想像の達成のために必要なものを粘り強く追求することができること、その理想像の実現に向けて全知全能を傾注できることである。

愛知学泉短期大学は、創設者の寺部三蔵・だい夫妻が生涯を通して心の拠りどころとし、常に求めてやまなかった「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を教育の基本として受け継いでいる。この四大精神の実践を通して、「家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与えることのできる人間を育成すること」を「教育の理念」としている。したがって、これら「建学の理念」と「建学の精神」は、子どもを育成する責任のある教員を養成するための礎となっている。

幼児教育学科は、幼稚園教諭二種免許状だけでなく、保育士資格を取得できるカリキュラムを設置しており、次世代を担う子どもの教育・保育の現場で活躍できるための基礎知識と技能の学修を行っている。この学修を通して、一人ひとりが社会の中で、自らの可能性を活かし地域に貢献できる保育者を養成している。

Ⅱ 基準領域ごとの自己点検評価

1 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

(1) 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標

① 状況説明

愛知学泉短期大学（以下、本学という。）幼児教育学科（以下、本学科という。）は、「建学の理念」と「建学の精神」に基づき、学則で定める教育目標に基づいて学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、DP）を下記のように定めている。

DP1. 本学の教育目標と教育方針の下に、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を実践している。

DP2. 社会に自立して生きていく上で必要なスキル・リテラシー・教養等を身に付けている。

DP3. 社会的に自立して生きていく上で必要な幼児教育及び保育に関する専門職に必要な専門的知識・技能を身に付けている。

DP4. 社会的に自立して生きていく上で必要な建学の精神・社会人基礎力・pisa型学力を統合的に身に付けている。

DP5. 生涯学習社会の中で自己の潜在能力をさらに開発しながら、職場と地域の課題解決に貢献できる。

これら5つの方針に基づき、カリキュラムが編成されている。

① 教育課程は、学則及び児童福祉法及び施行令、教育職員免許法及び施行規則で定められている。

② 履修科目は、大きく基礎科目と専門科目で編成されている。

③ 授業形態には、講義、演習、実技・実習の3種類がある。また、幼児教育あるいは保育現場の行事運営を念頭に置き、学修したことを体験的に確認するための取り組みとして「行事」も用意している。

④ 各科目は体系的に配置して、高い教養と実践的な専門的知識・技能を修得できるように編成している。

また、本学幼児教育学科の学生が身につけるべき学修成果は、下記の6項目を掲げている。

① 建学の精神と倫理観の修得。

② 文章理解（リーディング・スキル）・コミュニケーションスキル・数量的スキル・情報処理スキル（生成AI利活用）など汎用的能力の修得。

③ 基礎的及び専門的知識・技能を獲得（修得）し、獲得した知識等を活用し、実際の課題に適応して解決する「課題解決型学力」（pisa型学力）の修得。

④ 文化・社会・自然に関する知識修得と理解。

⑤ 学修態度・志向性・自己管理能力・チームワークなど「社会人基礎力（行動特性）」の獲得。

これらに幼児教育学科の学位授与方針を加味した上で、教職課程のカリキュラムが編成され、学修成果を設定する。

② 長所・特徴

幼児教育学科の目標は、本学で獲得した知識・技能をベースに、子どもや保護者など関わりの中で自己の潜在能力をさらに開発し、職場と地域の課題解決できる学力を育成することである。この教育目標に基づき、次世代を担う子どもの教育・保育の現場で活躍するための基礎知識と技能の学修を通し、一人ひとりが社会の中で、自らの可能性を活かし地域に貢献できる生活人に育成することとしている。

そのために、学生が幼児教育や保育等の知識・技能の獲得する力だけでなく、獲得した知識や技能等を活用する力、獲得した知識や技能を課題の解決に向けて実際に活用して課題を解決する力を一つの統合した課題解決型学力（pisa 型学力）を身に付けることで、幼稚園教諭二種免許状を取得できるとしている。幼児教育学科の教育課程は保育士資格を併修するカリキュラムを設定しており、子どもの発達のだん筋を幅広く学修する事で、専門性の高い人材を養成することとなっている。さらに、社会のニーズに応えられる実践力として pisa 型学力や社会人基礎力を育成するために、「こどもまつり」や「岡崎げんき館 ボランティア活動」などの子どもや保護者に直接関わる実践及び体験を重視した教育を実施している。

<根拠となる資料>

1-1-1 3 ポリシー委員会 議事録

1-1-2 キャンパスライフ 学生便覧 2023

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

① 現状説明

本学科は保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得を目的とする保育士養成施設・教員養成機関であり、教務委員会、カリキュラム委員会、並びに教職課程委員会と連携しながら、学科単位で教職課程を運営している。本学科は、2023年12月1日現在、保育・幼児教育に携わる教員10名（実務経験者2名）と助手3名によって組織されている。保育現場での実務経験を有する教員は「教育課程論」、「保育内容（環境）」、「保育・教職実践演習（幼）」などの科目を担当している。学校心理士、臨床心理士及び公認心理師としての実務経験を有する教員は「教育相談」などの科目を担当している。助手のうち1名が学外実習の担当教員の業務を補助している。

各教員には校務分掌が割り当てられ、教務委員1名及び幼稚園実習担当2名が中心となって教職課程を編成・運営している。教務委員は実習時期の決定、科目担当の依頼、時間割の作成、シラバスの確認など教職課程の編成に関わる業務を行い、実習担当者は事前事後指導のほか、実習先の決定・確保、訪問指導者の調整・確保などの業務を研究補助員と協力して遂行している。また、幼稚園実習担当2名、保育所実習担当2名、施設実習担当2名が実習担当者会議を開催し、実習中に問題があった学生への対応の協議や、次年度に向けた教育方針の見直し、本学科が発行する『学外実習の手引き』の改訂などを行っている。教務委員及び実習担当者会議における決定事項は学科運営委員会において報告され、学科運営委員会での決定事項は短大教授会において報告されている。なお、本学科の専任教員数・教員組織、教員の教育研究情報、シラバス及びカリキュラムマップなどの教職課程関連情報は短期大学ウェブサイトにて公開されている。

本学には「内部質保証委員会」が置かれ、この委員会が主導して、PDCAの手法によって各学科の自己点検評価の実施とその結果に基づく改善について推進を図ることとしている。幼児教育学科の教育に関しては、「内部質保証委員会の下、教職課程委員会による自己点検評価に基づく改善を図り、教職課程の質保証の推進を図っている。さらに、「愛知学泉短期大学FD委員会」が設置され、「愛知学泉短期大学FD委員会規程」の下に、年間を通して教育改善のための全学的・組織的活動を主導している。例えば、教員の授業改善に向けて毎年、学生による「授業評価アンケート」を全科目で実施し、その結果を取りまとめ改善の方策に活用している。また、専任教員相互による「公開授業」を実施し、参観した教員が評価することで、授業改善を促している。

教職課程の教育を行う上での施設・設備は、本学キャンパスマップ及び教室配置図に示されている。音楽棟にはピアノ練習室20室、ピアノ指導室7部屋に加え、多目的教室、音楽教室、音楽ホールがある。5号館には講義室（5教室）、幼児体育室、造形教室、美術教室、小児保健実習室、図書室が5教室ある。そのほか、キャンパス内には情報室（コンピュータ室）、調理実習室、体育館、大会議室、大講義室、中庭（芝生）、芋畑などがあり、教職課程教育に活用している。ICT環境については全学生・教職員に本学のアカウントが与えられ、GmailやGoogle Classroom、Office 365などのウェブサービスやアプリケーションを利用することができる。2022年度から教務システム（Active Academy Advance）

が本格的に導入され、履修登録や成績確認などの手続きがオンラインで実施できるようになっている。学内全体の Wi-Fi 環境が整えられ、教育の ICT 化が進められている。

② 長所・特色

本学には附属幼稚園が 3 園あり、1 年次の幼稚園実習は集団で附属園において行っているほか、1 年次における園児との関わり実践は附属園の園児が来学するなど連携している。毎年、幼稚園実習担当者は附属幼稚園園長と懇談し、実習の反省を行っている。

また、幼稚園実習担当者は、愛知県保育実習連絡協議会が開催する県内の幼稚園との懇談会に参加することを通じて、実習指導上の要望を園から聞いている。

② 取り組み上の課題

FD・SD 研修会が行われているものの、教職課程の質的向上に特化したものは、現状は学科の運営委員会での教員間での情報交換に留まっている。教職課程科目の効果的な連携と教育実践については、組織的な検討が課題である。

昨今の保育者や教員の不人気に対して、魅力を伝えるための有効な手立てを見いだせていない。本学科はほとんどの学生が幼稚園教諭二種免許状や保育士資格を取得して卒業するが、早期退職するケースも増加している。幼児教育学科としては、保育・教育の場で活躍できるように、学生に保育の魅力を伝えることは具体的な対策が課題となる。

<根拠となる資料・データ等>

- 1-2-1 愛知学泉短期大学内部質保証委員会規定
- 1-2-2 愛知学泉短期大学教職課程委員会規定
- 1-2-3 愛知学泉短期大学 教務委員会規程
- 1-2-4 愛知学泉短期大学 FD 委員会規程
- 1-2-5 愛知学泉短期大学幼児教育学科運営委員会議事録
- 1-2-6 愛知学泉短期大学キャンパスマップ及び教室配置図

2 基準領域 2 学生の確保

(1) 基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

① 状況説明

本学の定める入学者受け入れの方針（アドミッションポリシー：AP）には、幼児教育学科が求める人材が分かりやすく示され、短期大学会議等において共通認識を図っている。入試においては、学生募集委員会で評価指標を定め、入学の質確保を担保するとともに、多様な人材確保のために 9 種類の選抜方法を設定している。また、合格者には入学前課題を課して担当教員が学生へフィードバックし、学習意欲を維持・向上できるよう大学教育への円滑な接続を図っている。

幼児教育学科は 9 割を超える学生が免許・資格を取得し、幼稚園・保育所・認定こども園・福祉施設等への就職している。この現状からも、入学者受け入れの方針が即ち幼稚園教諭を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準となっており、ディプロマポリシー（DP）やカリキュラムポリシー（CP）も教職を担うべき適切な学生の確保と育成のための基準となっていることがわかる。また、教職課程に即した適切な規模の学生を受け入れていると言える。

また、幼児教育学科では、教育実習Ⅰ・Ⅱを実施するにあたって、下記の申し合わせを行っている。

- ・1年次の「教育実習Ⅰ」は、1年次の「教育実習事前事後指導」の出席が3分の2以上を見込めなければ、原則実施できない。
- ・2年次の「教育実習Ⅱ」は、2年次の「教育実習事前事後指導」の出席が3分の2以上を見込めなければ実施できない。ただし、やむ得ない理由の欠席については、大学の判断による。
- ・2年次前期終了時に「教育原理」、「幼児理解」、「保育内容（健康）」、「保育内容（表現）」、「保育内容（言葉）」、「保育内容（人間関係）」、「保育内容（環境）」の7科目を単位修得しなければならない。
- ・「保育所」「幼稚園」「施設」の実習期間内において、実習必要日数の3分の1を超えて欠席した場合、あるいは、D評価を受けた場合は、当該実習は不合格とし、再実習ができる。

このことにより、教育実習を行うために、適切な単位数の履修・修得だけではなく、教育実習の実施ができる資質がある学生が履修する仕組みとなっている。

② 長所・特色

幼児教育学科は、入学前に入試合格者に対して入学前課題の提示や新入生ガイダンスを実施し、保育者としての動機づけと意識づけを図っている。入学から卒業までは指導教員が中心となって一人一人の学習の支援を行っている。また、教職員間が綿密に連携しつつ、ゼミナール活動や学修ポートフォリオにおいて、学生の学修の状況を把握し、適切な支援を提供している。

<根拠となる資料・データ等>

2-1-1 愛知学泉短期大学アドミッションポリシー

<https://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/c/2-2.pdf>

2-1-2 学外実習の手引き-幼稚園・保育所・福祉施設実習- [2023年度改訂版]

2-1-3 学修ポートフォリオ

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

① 現状説明

本学では、教職課程学生に対して1年次から「キャリアデザイン」の授業を通して、教職に対する自覚と責任、意欲喚起への指導を実施している。進路については、就職課はもとより、就職委員が軸となり個人面接などを通じて、一人一人のニーズを把握し、進路および就職情報を提供している。1年次の後期には「キャリアデザイン」の他に就職試験に関する「保育・教育就職講座」の授業を実施している。また、少人数演習科目として「指導法研究」(幼児学ゼミナール)を設け、指導教授による就職支援の役割を果たしている。さらに全学組織である就職課においては、進路先である幼稚園、保育所、施設各種の相談に丁寧に対応する体制を整えている。また、専門のキャリアカウンセラーを設置し、個別相談を設けている。ここでの内容等については、必要に応じて就職委員会、学科運営委員会で共有されている。「キャリアデザイン」においては、積極的に幼稚園や認定こども園などの保育・教育の現場への見学やボランティアを行うよう指導し、より早期に現場を体験し保育の仕事の理解を促進するよう努めている。また、「幼児教育・保育職セミナー」を開催し、保育・幼児教育関連4団体を招き講演を開催し、保育者としての責務や専門的知識、採用試験対策についての理解を深めている。

③ 長所・特色

本学の特色として、「キャリアデザイン」の授業以外に、教員採用試験対策に関して、就職委員を中心とし、全教職員と就職課が連携し、1年次の冬期休暇から春期休暇にかけての期間と、2年次の夏季休暇中に採用試験対策指導を実施している。また、公務員志望者に対して、授業のカリキュラムとして及び授業の空き時間を活用し、専門分野の教員による公務員試験対策の筆記試験、実技試験、面接指導を集中的に実施している。例えば、2023年度卒業予定者の約41%が各自治体の教員採用で内定結果を得ている。このような各種対策指導は、全教職員の指導のもと、専門分野に関しては、各教科に関する専門科目を担当する教員が指導している。さらに、指導教員による個別指導と連携し、学生自身が希望する進路に就けるよう対応している。

④ 取り組み上の課題

本学では1年次の後期から教員採用試験に結び付く授業が設定されている。昨年度に比べ就職に対する意識が高くなったと見受けられる。早い段階から就職指導を実施していることが影響されていると考えられる。しかし、すべての学生が教職及び保育職とは限らず、一般職やアルバイトへ変更する学生がいる。また、わずかながら、就職活動が出遅れてしまい、希望していた就職先に進めていないこともある。以上のことから、早期の就職指導以外に就職課やキャリアカウンセラーの利用を働きかけや、学生の目指す自治体や幼稚園・

保育所などの教育・保育の就職の情報収集など自主的に行えることが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

2-2-1 「キャンパスライフ 学生便覧 2023」

2-2-2 「愛知学泉短期大学 就職の手引き 2023」

2-2-3 「2023年度 幼児教育学科 シラバス」

2-2-4 大学 HP

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

① 現状説明

本学科は教養科目 12 単位以上、専門科目 46 単位以上の総計 62 単位を卒業要件にしている。教養科目には、全学共通科目として、職業教育を通じて女性の地位向上をめざした創立者の教育信条を学ぶ「無限の可能性開発講座Ⅰ・Ⅱ」がある。また、専門科目には「指導法研究（幼児学ゼミナール）Ⅰ・Ⅱ」および「保育内容と指導法の総合演習（こどもまつり）Ⅰ・Ⅱ」がある。これらの科目は教職必修科目ではなく保育士必修科目であるが、学生が主体的に問題関心を深め、学校行事の企画運営を担うことで、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神や課題解決能力、社会人基礎力を発揮できるよう工夫されている。また、全ての科目について、本学科の DP に基づき、保育者の資質・能力だけでなく、建学の精神や課題解決学力である pisa 型学力、そして社会人基礎力を身につけるための工夫がなされている。

教養科目には教職必修科目である「日本国憲法」（2 単位）、「体育」（3 単位）、「外国語コミュニケーション」（2 単位）、「情報機器の操作」（2 単位）が含まれている。専門科目には教職必修科目及び保育士必修科目が 5 つの系列に分かれて配置されている。その中に、教職必修科目である「教育の基礎的理解に関する科目」（12 単位）、「道徳、総合的な学修の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」（6 単位）、「教育実践に関する科目」（7 単位）、「領域および保育内容の指導法に関する科目」の「領域に関する専門的事項」（9 単位）、「保育内容の指導法」（5 単位）が含まれている。本学科における進級の条件として、1 年次に履修すべき科目（卒業必修、教職必修、保育士必修の科目）数の 4 分の 3 を上回って単位修得されていること、1 年次に実施する実習の単位修得が認められていることが定められており、学生はこれらの科目を履修することが前提になっている。

本学ではカリキュラムマップ（履修系統図）を作成し、各領域間の系統性の確保を図っている。また、シラバスには DP に基づき科目概要や評価基準、授業形態等が記載されており、教職科目もそれに準じている。なお、教職課程コアカリキュラムについては、常勤・非常勤を問わず、シラバス作成の際に参照するよう事務局より周知徹底を図っている。学生は「履修カルテ」の代わりに「学修ポートフォリオ」を作成し、教職科目だけでなく全ての履修科目について自分の学修状況を記入している。加えて、「学修ポートフォリオ」には社会人基礎力に関する評価及び保育者に必要な資質能力に関する評価も記入している。これにより、学生は本学科の DP に基づく自身の学修状況を記録することができる。

本学では Google classroom 等のウェブサービスを活用することにより、授業形態をオンデマンド型の遠隔授業に切り替えられるようにしている。学生は本学のアカウントにログインすることで、Google Workspace や Office365 などのアプリケーションを使用することができる。

② 長所・特色

本学科では、現在、保育士資格、レクリエーション・インストラクター、准学校心理士、認定絵本土の資格を取得することができる。幼稚園教諭二種免許状に必要な専門性を獲得するだけでなく、各自の関心に基づいて活躍の場を広げられるようになっている。

岡崎市教育委員会と連携し、保幼小の連携・接続について小学校教諭の先生にご講演いただくなど、学校や社会のニーズに対応した教育を行っている。その他の授業においても、附属幼稚園と連携した授業や健康づくりのための複合施設「岡崎げんき館」における活動、「保育内容と指導法の総合演習（こどもまつり）Ⅰ・Ⅱ」などを通して実際に園児と関わる機会を数多く設けている。

③ 取り組み上の課題

2年間に保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状を取得するためには、1日に履修する科目数が多くなり、課題提出に追われる学生も少なくない。また、幼稚園実習、保育所実習、施設実習を2年間に合計5回実施しなければならず、授業期間もそれだけ長くなってしまふ。単位制度の実質化を踏まえた教育課程の質を向上させるためには、学生の状況に合わせたカリキュラムを編成する必要がある。

本学では教育のICT化が進められている。しかし、「学修ポートフォリオ」は紙媒体で作成しており、共通のプラットフォームから全ての情報にアクセスすることができない点に課題が残る。今後は「学修ポートフォリオ」を含め、学修状況について教務システムから確認できるようになることが求められる。また、教務システムの運用において様々な課題が指摘されており、教員・学生にとって利用しやすいようシステムに改修していく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

3-2-1 短期大学学則

3-2-2 令和5年度 カリキュラムマップ

3-2-3 令和5年度 幼児教育学科 シラバス

(2) 基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

① 状況説明

本学は地域・社会との連携事業の推進に努めている。本学が所在する岡崎市との間で、地域の活性化に関する産官学連携活動を円滑に進めるための協定書を締結している。

本学科では、地域における産官学連携により、互いの知識・技術の共有及び学びの深化、実践力の向上を目指し、地域の幼児期からの環境に関する教育と人材育成に貢献することを目的とした授業を展開している。授業内容の例として、1年次の保育内容「環境」において、岡崎市環境部環境政策課の職員を講師として招き、岡崎市の環境学習についての講義と自然を使った幼児向けの遊びを体験しながら、実践的な指導を受けている。

また、本学は、本学園が岡崎市主導のSPC「岡崎げんき館マネジメント(株)」の一員として参画して、岡崎市民対象の健康増進サービス事業を岡崎げんき館で実施している。この実施事業の主体である本学科では、「子どもと親のための公開講座」、「学泉のお姉さんとお兄さんと遊ぼう!」、「春のげんきまつり」協賛コンサートを企画運営し、地域の子育て支援事業として子育て交流や子育て講座等を開催している。その他にゼミによるボランティアは、食物栄養学科と協力し食物アレルギー児に配慮した活動や、障害児を対象とした活動などダイバーシティ&インクルージョンを視野に入れている。これらの教育活動の一環として積極的に取り組み、地域社会の発展と人材育成に寄与している

実習については、愛知県内の養成校が加盟する愛知県保育実習連絡協議会と定期的な協議を開催し、平等で円滑な受け入れ先の配当や保育者養成における現状や課題の共有・意見交換を行い、連携協力の体制を整えている。この基盤に加え、教員の巡回訪問指導や各自治体の保育関係所管課及び各園を通して、実習生のみならず卒業生の評価等を直接把握し実習の充実を図っている。

② 長所・特色

本学科では、1年次、2年次の全学生が通年授業として、伝統的行事「こどもまつり」に取り組んでいる。「こどもまつり」は学生が運営の主体となり、地域の子育て親子向けに毎年10月に開催する遊び広場である。授業で学んだ保育内容5領域の観点から遊びを計画、実施し、授業での学びの集大成として位置づけてある。1年、2年の縦割りのグループで活動することにより社会人基礎力を身に付け、当日は、親子と交流を持つことで実習だけでは学ぶことのできない貴重な体験を通して、幼稚園実習・保育実習などの学外実習の学びを深める機能を果たす。

また、ゼミ活動の一環として子育て支援企画「マザリーズ広場」を始め、食物栄養学科と協力し食物アレルギー児に配慮した「みんないっしょのクリスマス会」、障害児を対象とした「ヤングアスリートプログラム」や保育現場でのボランティア活動に取り組んでいる。げんき館活動の「学泉のお姉さんとお兄さんと遊ぼう!」ではゼミ活動として年間20回実施している。各ゼミの特徴を活かし、50分間の活動を計画し参加親子を楽しませている。この経験は子ども理解や実践的指導力の涵養を図る機会として設定している。

その他実習以外で子どもと関わる機会は、1年次で模擬保育として本学附属幼稚園児と

のさつま芋のツル挿し、さつま芋掘り、遊び交流会を設定している。1年次早々のさつま芋のツル挿しは、指導計画の立案から始めることで、学生が想像する子どもの姿と実際の子どもの姿の違いなどから保育のイメージの差異を体験することで、より現実的な保育の学びになっている。秋の芋ほりでは半年後の園児の成長を目の当たりにし、様々な子どもの発達過程における教育実践になる。これらの学びは実習反省会や学修ポートフォリオにおいて振り返りを記録し、保育・教育実践力や保育現場における知識・理解に繋げている。

Ⅲ 総合評価

本学は、「本学教職課程委員会規定」に基づく委員会を開催（2023年2月6日）して、その目的で示す「教育目標に基づいた教職指導を行い、教職免許を取得させるとともに、就職希望を実現すること」の活動に対する自己点検評価を行った。

その結果、本学における教職課程において点検・評価し、抽出した長所と課題は、以下のとおりである。

長所・特色

第一に、学生が幼児教育や保育等の知識、技能の修得だけではなく、DPで示すように社会の要請に応える実践力を身に付けるための実践・体験活動を重視した教育を実施していることである。

第二に、毎年、本学の附属幼稚園の園長と本学の教職に関わる教員が実習懇談会を行い、教育実習の反省を行っている点である。

第三に、教育実習を行うにあたって、実施する基準の申し合わせを行っている点である。

第四に、岡崎市教育委員会と連携し、保幼小の連携・接続についての講話を行っている点である。

第五に、教職課程修了者の就職については、概ね免許・資格を生かした専門職領域へ卒業予定者の95%以上が、毎年、進路を確保している。さらに、公務員としての同専門職の就職率について上昇傾向であり、教育支援の成果が上がっている点である。

課題

(2023年度第9回幼児教育学科運営委員会)

2024年1月9日 経過報告（2023年度第10回幼児教育学科運営委員会）

2024年2月1日 経過報告（2023年度第11回幼児教育学科運営委員会）

2024年2月6日 本自己点検評価報告書の作成（本学教職課程委員会）

現況基礎データ票 (令和5年5月1日現在)

設置者	学校法人 安城学園				
大学・学部名称	愛知学泉短期大学				
学科やコースの名称	幼児教育学科				
1 卒業生数、教員免許取得者数、教員採用者数等					
① 昨年度卒業生数	60名				
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)	名				
③ ①のうち、教員免許取得者の実数 (複数免許取得者も1と数える)	57名				
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)	27名				
④のうち、正規採用者数	26名				
④のうち、臨時的任用者	1名				
2. 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	3名	3名	4名	0名	0名